

# 女<sup>かん</sup>葉<sup>よう</sup>植物<sup>しよくぶつ</sup>

SULTRY FOREST

半脱ぎ半呑み  
粘液サンド

異種姦 孕ませ 長乳首  
半呑み 膨乳 触手

SHE WENT ON A QUEST  
TO PAY OFF HER DEBT.  
HAVE A "SECRET PLAN"

OVER 18 ONLY  
らぼた工房





ある一人の  
若い  
冒険者のお話

彼女が進むのは  
セミの鳴く  
蒸し暑い森



熱気と  
湿気で  
クラクラ  
する

おっ



また  
あった  
助かる

【ウォータープルーン】  
その実に、冷たい水が  
溜まっています



喉がすぐに  
乾く

いくら  
飲んでも

藍沢なつみ: 冒険者  
(Natumi Aizawa)



今回の危険なクエストへの対策だ



さて森の中で「マスク」とは？

これは彼女なりの



なんと形状記憶

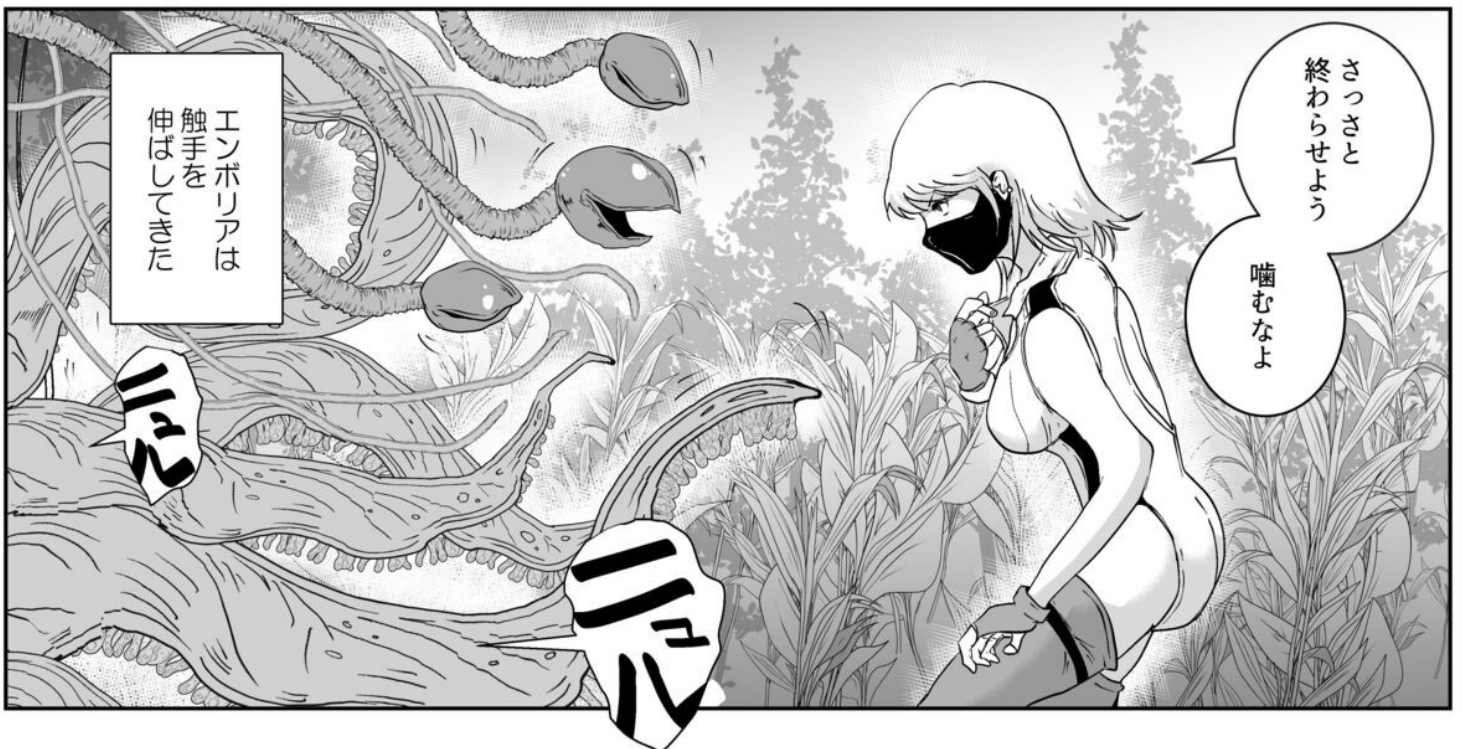
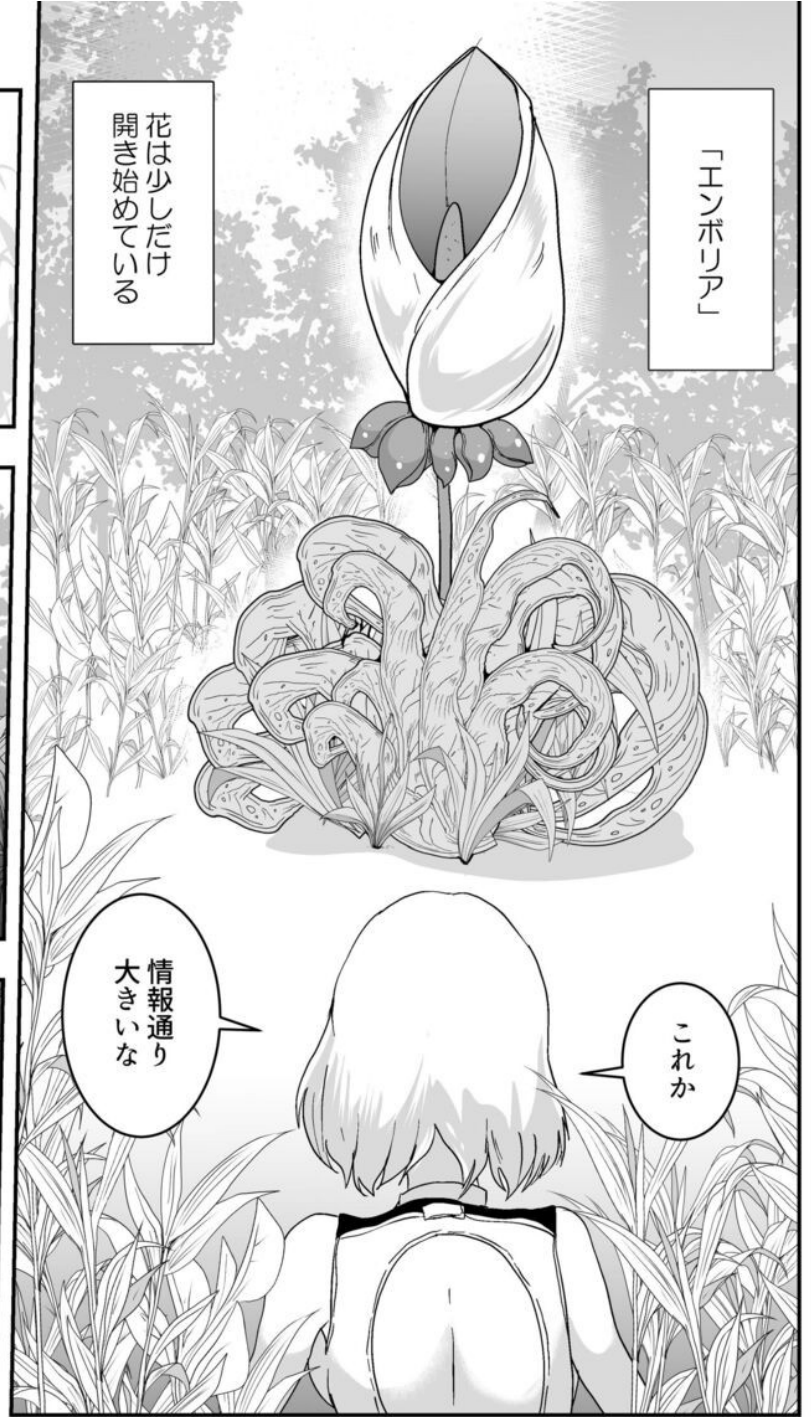
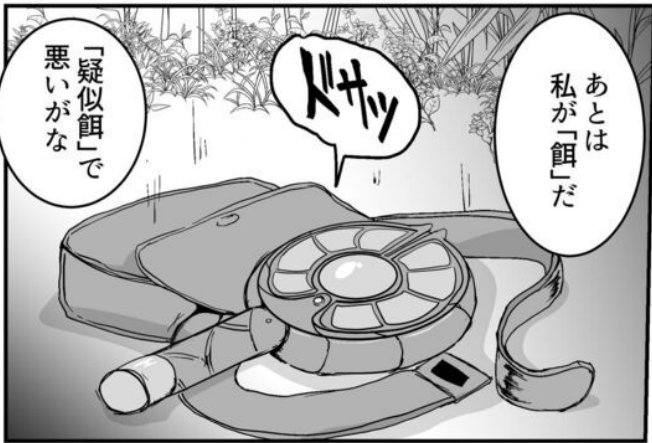
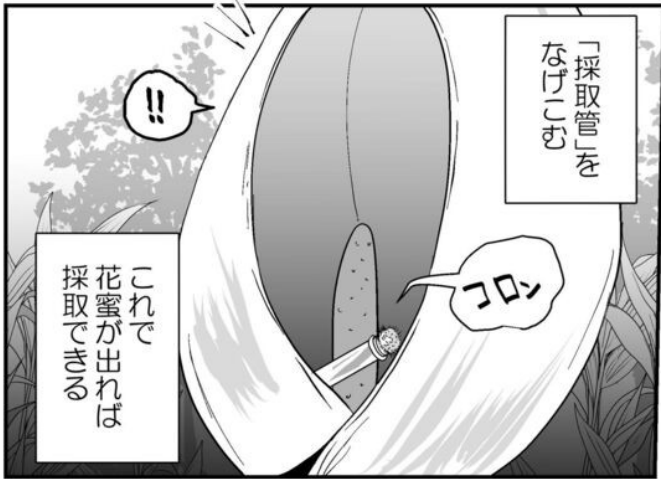
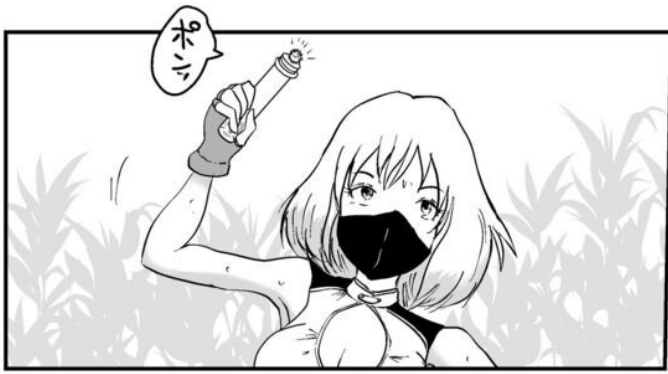
戦闘時にちよつとズれても戻ってくれる

クエストは「エンボリアの花蜜の採取」

エンボリアの出す分泌液を飲まないためのマスクである

報酬は高額だが達成率の低いクエストだ







「エンポリア」に限らず  
モンスターの多くは

まず獲物に  
自分の精液を  
飲ませること  
初手とする

モンスターの  
精液には  
催淫作用と  
女から

快楽分泌物である  
「マナ」を  
出やすくする  
効果がある



よし……  
大丈夫だ

精液は  
入ってこない



女の「飛沫対策」は  
上手くいったようだ

高価なマスクを  
購入した  
かいたが  
あった

支払日は  
まだ先だが



モンスター達の  
目的はこの  
「マナ」の摂取だ



女にはさらに  
勝算があった

……

ガッ

ガッ



彼女は  
「不感症」を  
自負していた

これまで  
モンスターに  
イカされた  
ことが無いのだ



「膨乳も  
始まっていない

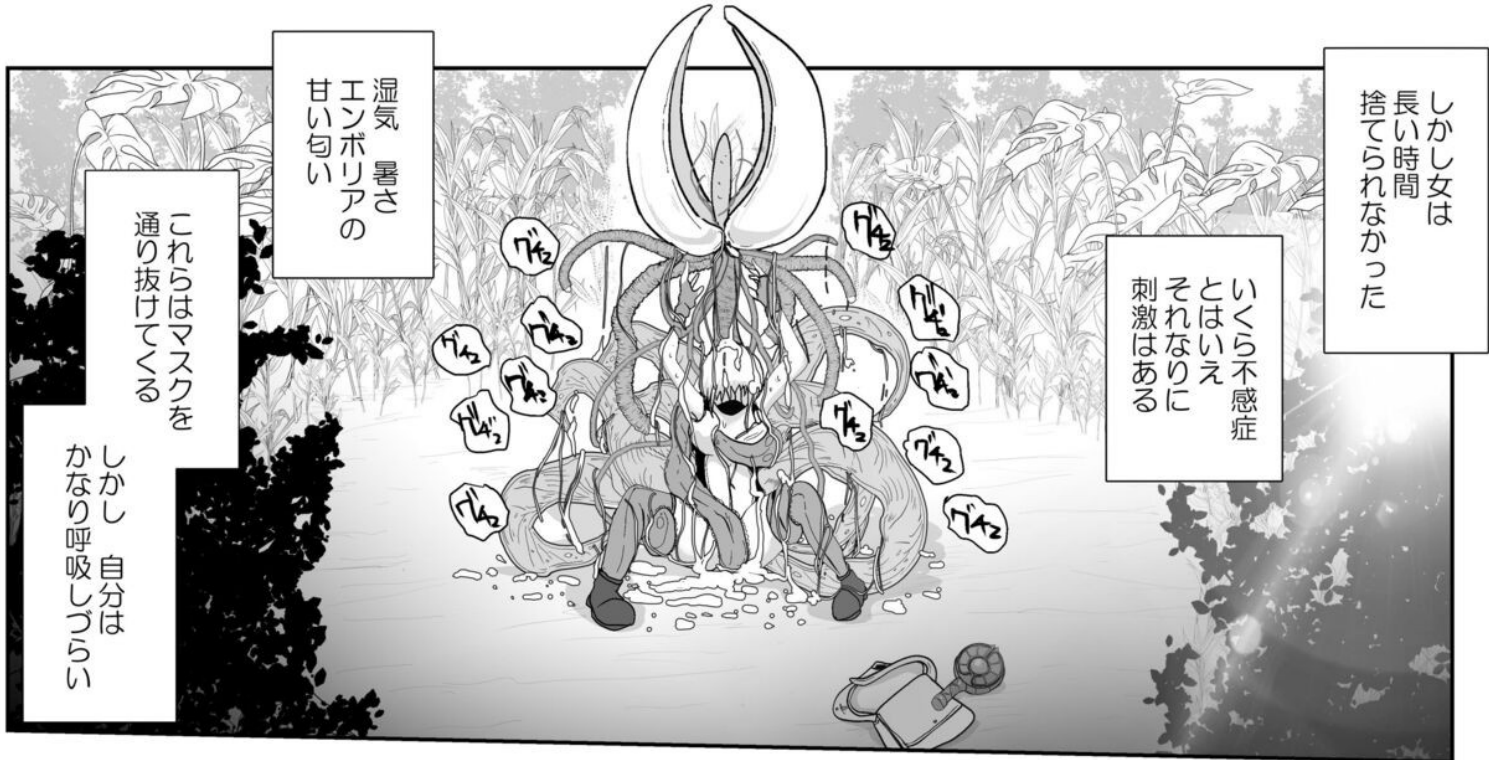
このまま  
やり過せば  
マナの枯渇した  
「ハズレ」として  
モンスターも  
私を捨てる  
だろう  
そつしたら  
採取管を  
回収して  
終わりだ



報酬は高額  
これで

抱えた借金と  
滞納した家賃も  
返済できる

「簡単なものだ」  
女は思っていた



しかし女は  
長い時間  
捨てられなかった

いくら不感症  
とはいえ  
それなりに  
刺激はある

湿気 暑さ  
エンボリアの  
甘い匂い

これらはマスクを  
通り抜けてくる

しかし 自分は  
かなり呼吸しづらい



暑い……  
苦しい……

喉が  
カラカラだ



あっ  
「ウオーター  
プルーン」

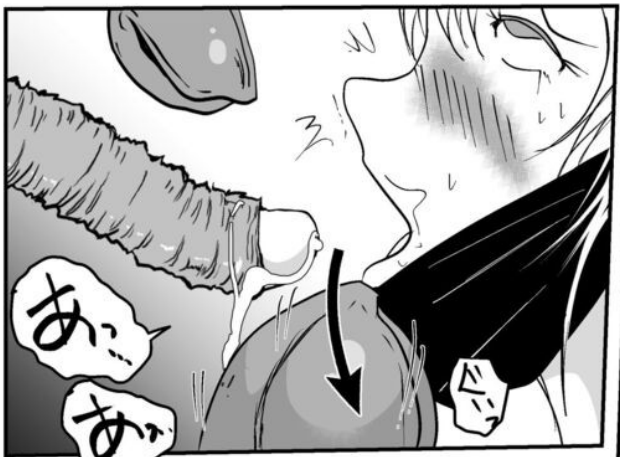
「アバドンの灯」とは  
まさに このこと



体力的にも  
精神的にも  
女はもう  
限界だった

\*「アバドンの灯(ともしび)」 "Torch of Abaddon" こちらの世界の「地獄に仏」的な慣用語です





既に女の感じている  
性的快楽は  
相当なものだ

モンスター  
の精液は  
女の体を変化させる

バストはパンパンに  
膨れ上がり

肥大化した乳首から  
吹き出す母乳を  
触手が吸い取る

「女は  
「不感症」の筈じゃ  
なかったのか？」

冒険にもいかずに  
ひたすら  
「集合知」で知識を  
集めているうちに

——残念ながら  
そこではない

これまで強い  
モンスターと  
勝負してこなかった  
だけだ

自分はこの  
クエストをクリア  
できるぞ

信じ込んで  
しまったのだ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

エンポリアは  
女の準備が  
出来たことが  
解ると

その姿を  
「搾取モード」へと  
変貌させる

「木…」

中央の男根から  
甘い蜜がしたり  
落ちている

ちなみに  
この花蜜は  
100倍に希釈して  
「媚薬」にする

つまりこれは  
「原液」

嫌っ…

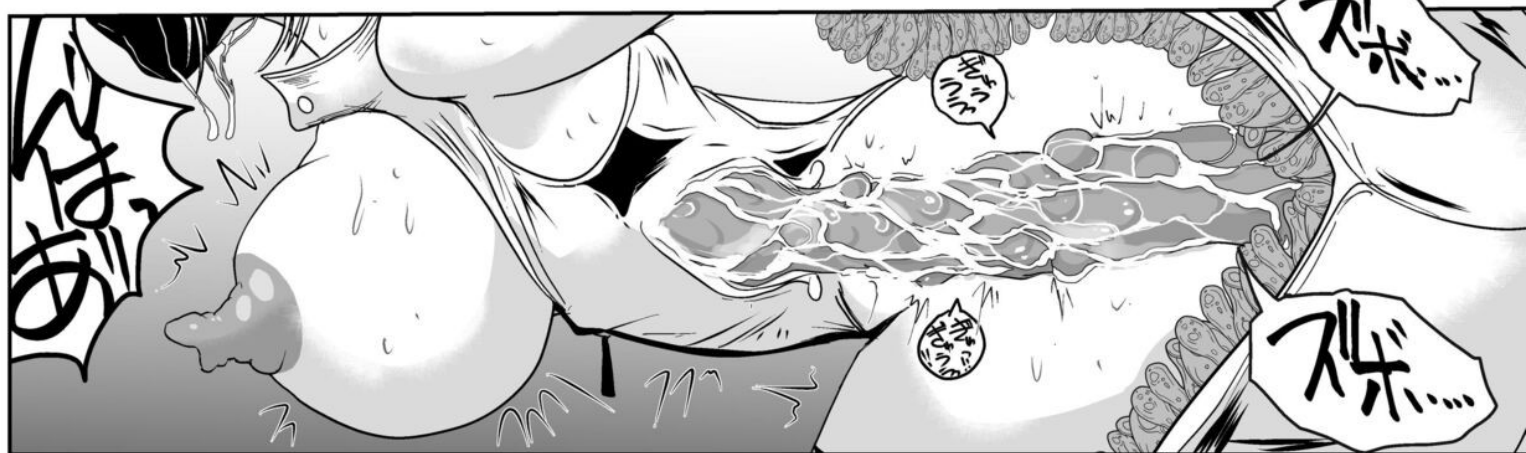
経験の浅い女に  
こんなものを  
注入したら…

採取管にも  
たっぷり入った  
ことだろう

これが高い値で  
売れるのだ

無理…  
無理…  
無理…

「お…」



少し動いた  
だけで

女は  
あつという間に  
イカされ



孕まわさる



マナは  
体中から吹き出し



短い触手ブラシが  
絶えず女を  
舐めまわし



さらに快楽を  
与える

体ごと  
上下にゆする

エンボリアは  
それを吸引する



子宮をさらに  
奥まで突き上げる

んんん

ビクビクと  
痙攣する乳首から  
母乳がこぼれ出す

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

女は  
初めての孕み  
初めての呑まれに  
失神寸前だった

ぼお……  
らめ……れ……

ごあれ……  
ちやる……

精液まみれのマスクが  
まとわりついて  
上手くしゃべれない

……もつともちゃんと  
言葉になったところまで  
モンスターは  
言葉を理解しない

躊躇なく  
マナの回収を  
続ける



花房の中で

女は  
孕んだまま  
犯される

媚薬の原液が  
まみれた

エンボリアの  
男根が激しく  
前後に動き

女の子宮と  
膣の内部を  
こする



花弁の  
触手ブラシは  
女を体ごと  
挟みこみ

肥大化した胸と  
感度が極限まで  
達した体を  
激しく揉みしだく



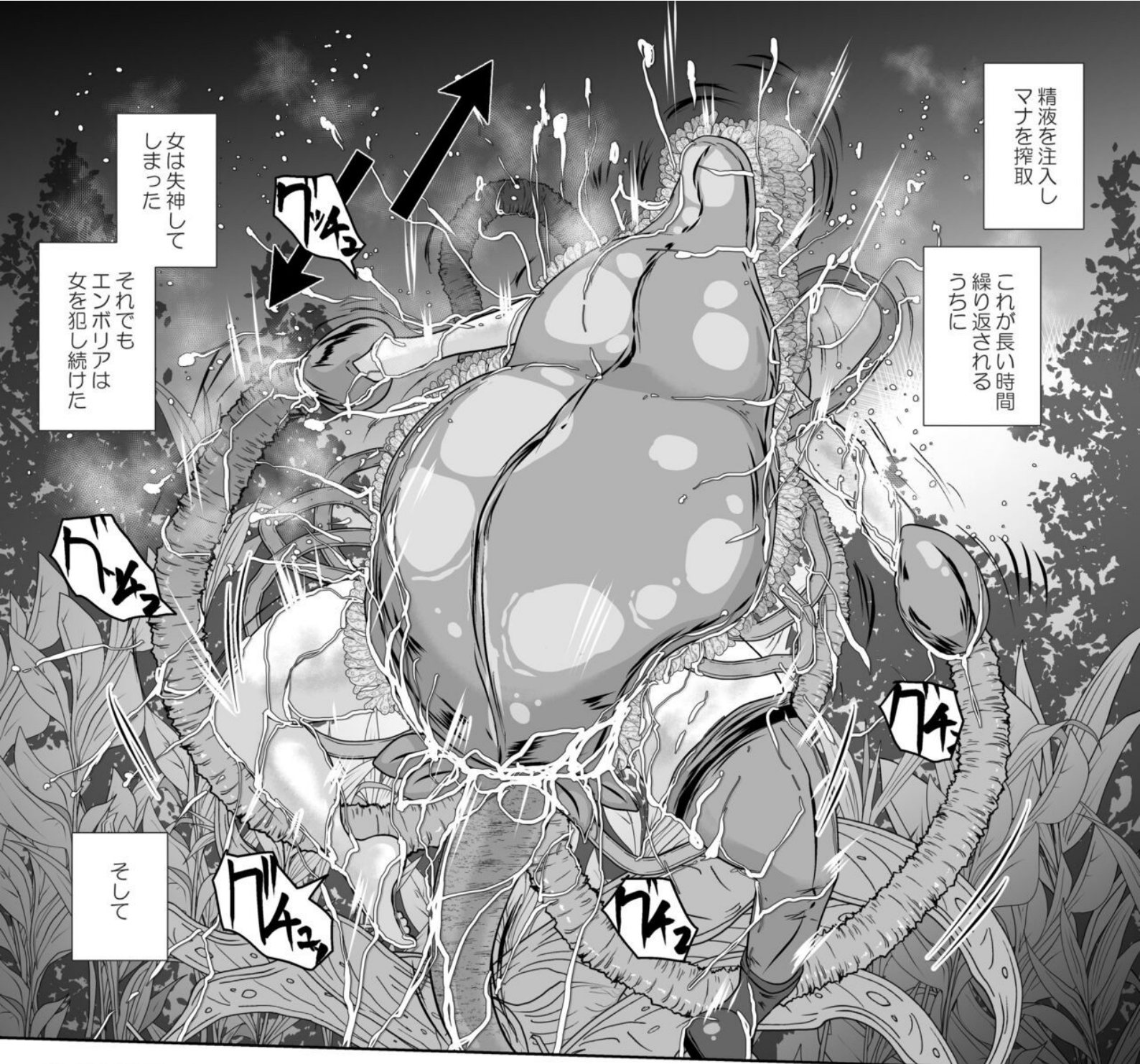


渴きを潤す  
精液も  
再注入される

獲物が暑さで  
死なないように  
花卉を開き  
放熱をする

女の哀れな  
肢体が  
あらわになる

「この獲物からは  
もう少しマナを  
搾り取れそうだ」



精液を注入し  
マナを搾取

これが長い時間  
繰り返される  
うちに

女は失神して  
しまった

それでも  
エンボリアは  
女を犯し続けた

そこへ



マナの味が  
しなくなった  
とこで

女は  
捨てられた

失神してもなお  
体の痙攣が  
とまらない

マナを完全に  
搾り取られた  
後でも 快樂は  
途切れないからだ

日が暮れ始め

養分をたっぷりと  
溜めたエンボリアは  
また しばらくの  
眠りにつく



残念ながら  
女の帰還魔法は  
アクティブに  
なっていない

クエストの報酬や  
戦いばかりに  
気を取られ  
「詰め」を怠る  
冒険の初心者  
にはよくある  
ことだ



そこに

エンボリアの食事が  
終わるのを  
隠れて待っていた  
者が現れる

獣人「オーク」

オークは  
女縛ると  
地下の住処へと  
運んで行く



オークは  
女のマナなど  
どうでもいい

性欲処理と  
子を産ませる事が  
目的だからだ

あま

あま

あま

あま

あま

あま

それに  
エンボリアの原液を  
大量注入された  
女など

「日常」に  
戻れる  
訳が無い

マスクは  
捨てられていた  
呼吸がしやすい

女は  
大声でよがる

あま

そして女は  
ここで快楽を  
むさぼりながら

オークたちと  
一緒に暮らすこと  
なるだろう

しかしモノは  
考えようである

ここには  
住むところがあり  
借金取りも来ない

大事な母体として  
食事もしっかり  
供給されるだろう

なによりもはや  
中毒になっていた  
「集合知」も  
縁を切れる



理想の自分を  
作り上げなくて  
いいのだ

またイコラ  
またイコラ

おかし  
おかし

それに  
もう

お金を借りて  
嘘を並べて

おかし  
おかし

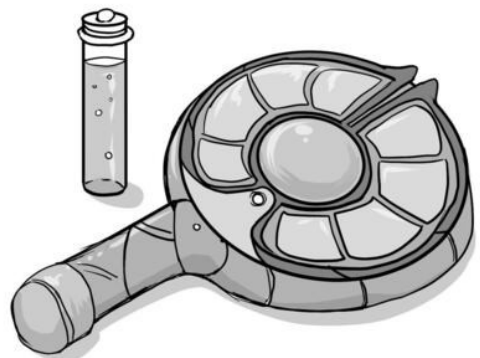
グググ  
グググ

グググ  
グググ

この後日 彼女の登録していたギルドで「エンボリアの媚薬」の闇取引が行われた。彼女の持っていた「コンバーターソード」もかなり高価で落札された。

ギルドは、彼女に貸していた金額以上の収益を得たようだ。

**END**



# SETTING



## 【冒険者の生活】

この世界では、食べ物、飲み物、住むところさえ、最低限に生きていく分にはお金はかからない。しかし、良い暮らしをしようとするとは別。集合知がこんなに普及する前までは、多くの者が好きなように暮らしていたが、今、一部の者たちには「自分がいかに豊か、恵まれているか」を競いあう傾向がある。

## 【集合知（デラ・コンターロ）】

皆さんの住む世界でいうネット。玉石混合。仕様は空間モニタ（空中に魔法指で四角を作って表示させる）が主。宝珠を通して使うので、電源ケーブルは不要。



## 【冒険者ギルド】

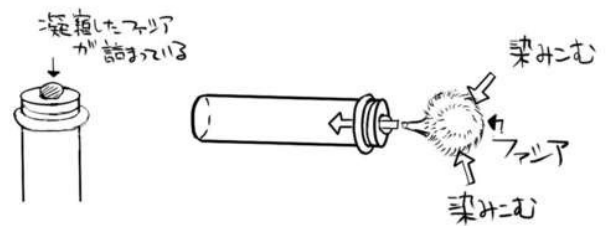
昨今の「異世界ブーム」のせいか、この世界にくる冒険者が爆増したことで小さなギルドが乱立している。新規冒険者獲得のために、ランクの高い部屋に住ませたり、低金利でお金を貸したりするなど、サービス合戦が展開されている。冒険者の登録数によって国から補助金が出るので、新規参入ギルドの中には、悪徳な業者もあり、新たにこの世界に来た人は、ギルド加入は十分吟味して欲しい。もちろん、ギルドへ未登録でも問題ない。国の制度を使えば、部屋も手に入れられるのだが、集合知検索では国の制度は上位に来ないという問題も。

## 【エンボリア】

半分植物、半分モンスターの「ベジモラ種」のひとつ。移動はできないので、手慣れた剣士なら問題なく狩り取れるが、こちらから近づかないと攻撃はされないし、倒したところでドロップもない。そもそも、植物として様々な恵みを与えてくれるベジモラ種を、進んで狩ろうとするものはあまりいない。「搾取モード」にある場合は、捕食葉や触手の動きがまさしくモンスターのそれになるうえに、花卉の色が薄いピンクから濃い紫色に変わるので、遠くからでもすぐに分かる。

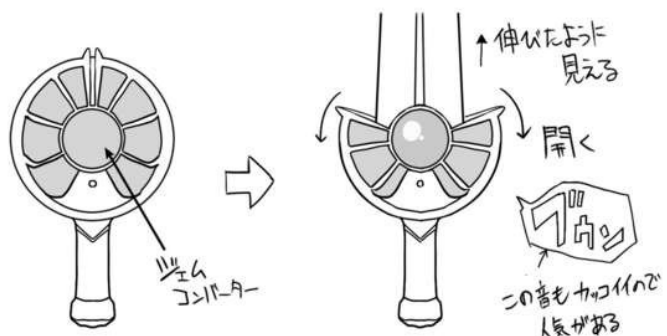
## 【採取管】

ふたのピンを抜くと、圧縮されたファシアの球が広がり、それが花蜜を吸って管の中に溜める。ある程度溜まると、内側からの内圧で蓋が閉じてファシアが落ちる構造。



## 【コンバーターソード（収納型ロングソード）】

かなり高価なマジックアイテム。収納型といっても、剣身が短く収縮して収納されているわけではない。剣身は別次元（アーセナル）に常在しており、中央のジェムコンバーターを利用してこちらの次元に具現化する。使用者本人のレベルと状況次第では、斬撃波も飛ばせる。もっとも、現在はジェムクラフト（宝珠を使った魔法）の発達で、ジェムだけを持っていれば持ち手を含めた剣全体を次元ズレさせることもできるが、このアンティークな装丁が冒険者たちのあこがれの的だ。本編のヒロインにとっては皮肉なことだが、その特徴的な開閉機構からか、この剣のあだ名は「エンボリア」である。



# HEROINE



## 【本編ヒロイン：藍沢なつみ】

経験も実力も乏しい割に、完璧主義で他人を見下すところがある彼女。そこをうまく利用され、ギルドに騙され（と言ってもギルドとしてはれっきとした商売）借金が膨らんでしまった。

自分でも気づかないまま、どんどん沼にはまる。見た目は健康そのものだが、「マスクはエンボリアの直前にすればいい」ということさえ気づかないほど、半ば精神的に病んでいる。

エンボリアのクエストについては以前から知っており、いざ困窮となったらクエストをやればよかったと思っていた。今回の開花時期に合わせ、実行した。

根は責任感の強い、頼りになる女性なのだが、孤独と、雑多な情報が彼女をむしばみ、追い詰めた。ひとつの物語の終わりが、彼女にとって、充実した次の物語の始まりになることを祈る。

ごきげんいかがですか高石です。今作はいかがでしたか？相変わらずこんな感じですみません（何の謝罪）。楽しんで頂ければこれ幸いです。

矢印描写、初めて使ってみたのですが、どうでしょう？ウザかったですか？自分はコマの中をぐちゃぐちゃに描いてしまうので、「効果線」が判別しにくくなってしまいます。なので、力の動きを表現するために今回、実験的に使ってみました。製本されたときにどう見えるかちょっとドキドキです。カキモジ（擬音）が吹き出しの中に入っているのも、見やすくしたいという理由なんです、絵が隠れてしまうのがちょっと現在悩みの種です。

そして本編です。なつみちゃん、多分、孤独なんですよ。ネット、じゃないや劇中の「集合知」も自分の言葉枠から外に出られず、結局自分にとって都合のいい結論を強化するために使ってしまう……私たちも同じです（該当されない方はお許しを）。

そして実はメインテーマだったんですけど、マスク。驚きましたね。自分も驚きました。

今回、ネームはかなり苦労しております。1か月半書き直しています。遊んでたわけではないです。遊んでましたけど。この物語は、彼女の「得体のしれない承認欲求みたいなもの」から湧き出る「息苦しさ」=「生きぐるしさ」を描こうとして。その象徴として、マスク描写や、そこからの解放みたいなことを描きたかったのですが、ここを掘り下げてしまうと、どうしても「マスクとは、彼女の心の在り方にとってどういう存在か」を描くことが避けられなくなります。

現状の日本ではここがかなりセンシティブなので、いくら「キャラにとって」としても、すぐ戦争になりえます。せっかく非日常（それもかなりニッチな）を楽しもうとしている同人誌で、そこを素人が偉そうに比喻する意味あるかなって思って、何度もうまい表現を探したものの結局、そのあたりは特に意味を持たせずに着地というチキンフィニッシュです。このビビりが。

自分はファンタジーって、「今」を映す鏡だと思ってまして。中世の童話に王子様との結婚 END が多いのは、それ以外に貧民が成り上がる道が無かったからじゃないかなと。しかも貧乏人と大金持ちの出会いが「偶然」。自分で何かを仕掛けて、何かにたどり着けるような時代じゃなかったんじゃないかなって思うんです。

私たちが過ごしたこの数年間、未来の少年たちにはどんな風に映るのか。マスクは結局「情報の具現化」の象徴です。そんな情報に振り回される私たちですが反面、情報のおかげで、大絶滅の危険を避けられたのかもしれない。

これらが良い悪いのジャッジではなく、ただその期間にこんな物語が生まれた、ってことを残しておきたいなって思いましたってなんかエラそうに言ってる核心描いてないんだからダメじゃん。このチキン。KFC。

このあたりの描写を避けて、エロ絵に時間とページを割いてみたのですが、やはりもうちょっと「息辛さ」みたいなものを描きたかった。これは単純に実力不足です。結構長くエロファンタジー道やってきたつもりなんです、まだまだ道半ばです。

そういえば、なつみちゃんが回収したエンボリアの媚薬がギルドに戻っていますが、これはいったい何者がギルドに持っていったんでしょうか……！！？これは謎が深まり……！！？

……いや、これも「今」の鏡なのかもしれません。私たちの住む世界は、結構ファンタジーだと思います。私たちの住む世界とらばた世界をつなぐ道は、どこにでも、あるんだと思います。

あっと、ちょっと途切れてしまっている GoTo シリーズですが、筆をおく前にこのシリーズだけは完結させたいので、何とかして進めます。温かく灼熱の視線でお見守りください。

2023年7月末 高石ふう



【奥付】 ・ 誌名：「姦葉植物 半脱ぎ半呑み粘液サンド」

- ・ 初版：2023年08月13日 (C102) 印刷：株式会社 栄光 ・ 著者：高石ふう (support@larvatur.skr.jp) / Twitter：@lavatakoubou
- ・ サークル名：らばた工房 (EroticFantasy ラーバタス) <https://www.larvatur.info>





らばた工房  
告知用  
Twitterです



らばた工房